東京大学農学部　有機化学研究室の歴史

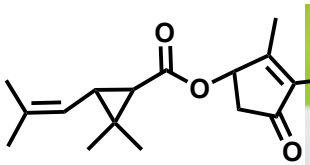
初代教授　：松井正直・除虫菊の殺虫成分ピレスロイドに関する研究
・殺虫剤アレスリンの工業合成法の確立

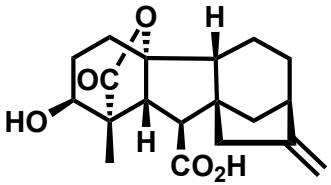
第二代教授：森　謙治・植物ホルモン・ジベレリンの世界初の合成
・昆虫フェロモンの化学合成
・生体触媒を用いた光学活性原料の大量合成

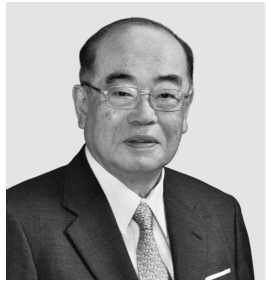
第三代教授：北原　武・アルカリ土壌の利用を目指した
鉄キレーター・ムギネ酸類の系統的合成
・極めて汎用性の高い高活性反応剤の開発

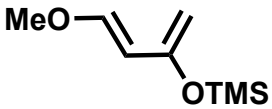
第四代教授：渡邉秀典・昆虫の摂食を阻害する超難関天然物
アザジラクチンの不斉合成
・複雑骨格を有する天然有機化合物の
効率的合成法の開発

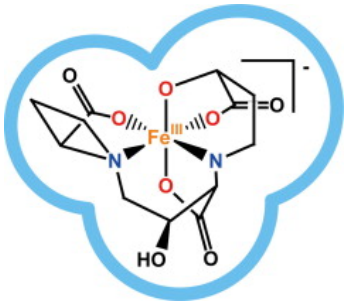
第五代教授：滝川浩郷・有機合成化学的視点からの
ストリゴラクトン研究等

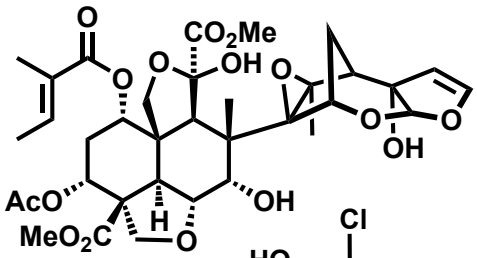


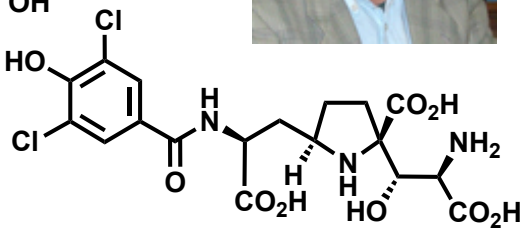












農薬を中心とした有用化合物の開発に対して貢献

現代においては農薬開発の目的だけにはとどまらない
人類にとって有用な有機化合物が合成対象